

令和2年度 学校経営方針

はじめに

Society5.0 時代（1.狩猟、2.農耕、3.工業、4.情報、5.仮想空間と現実空間が高度に融合された新たな社会）の到来など、今後の社会状況が大きく変化することが予想される中、そんな大変革の時代を生きていくための基礎的な力を子供たちに育んでいくことが求められている。そのためには、学校教育も変化に対応して変わっていかなければならない。

教育には、どんなに社会が変化しようとも、「時代を超えて変わらない価値のあるもの」を育むことが求められる。豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心など、こうしたものを子どもたちに培うことは、いつの時代、どこの国の教育においても大切にされなければならないことである。

また、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」に柔軟に対応していくことも教育に課せられた重要な課題である。少子高齢化、グローバル化、情報化等が進展する中、働き方等に関わる改革が進められている。「生徒たちが本当に必要としていること」を見極め、取り組む改革との乖離がないよう、ことの本質を吟味し、これまで学校現場のなかで不易とされてきたことにも踏み込んで進めていくことが必要であると考えている。

「時代を超えて変わらない価値のあるもの」と「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」を十分に見極めつつ、子どもたちの教育を進めていく必要がある。「よい学校」とは、「信頼される学校」であり、家庭の学校に対する信頼の基盤は、我が子が毎日の登校を喜び、先生や友達と共に学び、学習や学校生活に満足感を見いだすことである。教職員は、真剣な教育実践と誠実な生活態度がその基盤にある。そのために、日々の実践を惜しまず、すべての教育活動を「正義を愛し、礼儀正しく、楽しさと潤いに満ちた活力ある学校」の達成に向け、学校経営を推進していく。

教育活動推進上のキーワード

さらなる改革

～「感動の共有」による信頼関係の醸成をベースに～

学校を取り巻く環境が大きく変化する中、本校はこれまで、「感動の共有」「連携」をベースに教育活動を展開し、成果を上げてきた。感動を生む教育活動を創り上げ、生徒と共に、地域・保護者と共に様々な感動を共有することで、教師と生徒との信頼関係の構築、生徒同士のよりよい人間関係づくりを進めてきた。言うまでもなく、すべての教育活動の根底には「信頼関係」が不可欠である。「対話的で深い学び」を追求する授業づくりでは、生徒間の信頼感・安心感があってこそ、より深い授業の展開が可能となる。また、教師と生徒との信頼関係があつてこそ、十分な「生徒理解」を基盤とした適切な生徒指導（生徒支援）を行うことができる。それらは、教師個々の力量のみで実践できるものではない。すべての教師が情報を共有し、「連携」「協働」できる教師集団としての力量を高め続けることが大切である。感動を共有する場面を意図的に効果的に設定し、教師集団として組織的・機動的に対応することにより、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。現状に満足することなく、職員それぞれが創意工夫を発揮し、「さらなる改革」を進め、学校教育目標の具現化に迫りたい。